



○「デジタルトランスフォーメーション」

デジタルトランスフォーメーション (DX) とは、進化した IT 技術・デジタル技術を社会に浸透させることで、人々の生活をより良いものへと変革させていく概念と理解しています。



新型コロナウイルス感染症の影響もあり、社会が大きく変化する中で、例えば経済界では、これまでのサービスやビジネスモデルにはない発想や変革が、競争を生き抜く上で必要となってきました。また、SDGs への関心も高まっていて、国や組織など既存の枠組みを越えて社会課題の解決に貢献していくことも求められています。広義にはこうした概念も含む言葉と思っています。

今年の3月4日に中村朱美氏の講演を聴く機会がありました。中村氏は、京都にある百食屋 (ひやくしょくや) の経営者として有名な方で、5～6年前のテレビ番組で知り関心を持っていた人です。名刺交換を申し出ましたが、気さくに応じていただきました。中村氏の経営手法は、まさに DX と言えるものだと思っています。ランチ営業のみで1日100食しか提供せず、完売したら営業終了、しかもフードロスがゼロというビジネスモデル。飲食店なのに冷蔵庫はいつも閉店時には空の状態、廃棄をなくし儲けを出しているそうです。働く時間が長く夜も遅い店が多い飲食店業界にあって、働く時間が短く、ワークライフバランスの質が高いのもこの店の特徴です。このため、多様な方々が従業員として働いておられます。従業員の「自己決定権」が大切にされていて、勤務開始時間も自分で選べるようになっています。有給休暇の取得は100%があたりまえで、指定休も自分で選べ、上司の許可もいらないそうです。働き方改革のトップランナーと言えるかもしれません。コロナ禍にあって、赤字2店舗の閉店を早期に決断 (残したのは2店舗)。それは従業員の雇用も維持できないことにもつながりますが、その中で見えた従業員との厚い信頼関係。そんな話を講演でできました。コロナ禍にあって発想を次々変えたり、生み出したりして、ピンチをチャンスに変え、挑戦をし続ける姿勢からは大きな刺激を受けました。

講演で一番印象に残ったのが、スライドで示された次の言葉です。

「視点を変える、気づきを大切に、常識を疑う、固定観念をなくす、そもそも？を考える」

これは探究的な学習、そして学びのもっとも大事なことと共通しています。この講演は経営者向けで、タイトルも「逆境に負けない強い中小企業の作り方～after コロナの時代に向けて～」だったのですが、学校の抱える課題と共通点がいくつもあるように感じました。

講演で「早く定年退職したい仕事でなく、楽しいからやめたくないと言える仕事を、未来の子どもたちのためにつくっていきたい」と語られました。これが働き方改革の本質かもしれません。